

きょうせい

No.23

令和6年8月発行

環境と人の共生

発行／公益財団法人とやま環境財団



富山県立氷見高等学校 海洋科学科の皆さん

藻場を荒らすムラサキウニを捕獲し、
廃棄野菜で育成する
プロジェクトに取り組む。
詳しくは、こちら。



理事長あいさつ

公益財団法人とやま環境財団
理事長 麦野 英順

残暑厳しき折、皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

また、日頃から当財団の運営や事業の推進に多大なご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、元旦に発生した能登半島地震は、本県でこれまで経験したことのない震災となり、半年を経過した現在においても、生活再建や産業の振興などの対策・支援が行われています。初動対応から復旧・復興に至るまで、日頃からの防災意識や防災力の向上、そして地域のつながりの必要性をより強く実感したところ です。

気候変動問題をはじめとした環境に関する諸問題への対応についても、同じことが言えると考えています。

皆様のご家庭で、日常生活で簡単に取り組めることを日頃から実践する、地域の人々や企業・団体

の皆様がつながり、一体となって取り組む、そうしたことの積み重ねで大きな成果が生まれます。

環境省では、脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動として「デコ活」を展開しています。日頃から取り組めること、県民の皆様、企業・団体の皆様、行政が連携して取り組めることが具体的なアクションとして示されていますので、取り組みの道しるべにさせていただければと思います。

本県においても、10月に「とやま環境フェア2024」を開催します。企業・団体の皆様の脱炭素・環境保全の取組みや製品・サービスを見聞でき、体感・体験を通じて環境の大切さを学ぶことができる出展ブースや来場者が楽しく参加できるステージイベントを企画・準備しておりますので、県民の皆様にはぜひお誘いあわせのうえご参加いただき、理解と行動変容のきっかけにさせていただきたく思います。

当財団としましては、県や市町村、関係団体と連携し、持続可能な社会づくりのため、地域に根差した環境保全活動の充実・強化に努めていきたいと考えておりますので、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

とやま環境財団の主な事業

県民やNPO法人・団体、企業、行政等との連携・協働により、引き続き、県土美化、自然環境の保全など身近な問題に取り組み、環境保全活動をより一層推進します。

また、デコ活やカーボンニュートラルの推進、プラスチック資源循環、食品ロス削減をはじめとする資源の効率的な利用の促進など、持続可能な社会の実現に向けた活動を積極的に展開します。

協働推進事業

環境とやま県民会議、
県土美化推進県民会議の運営
みんなできれいにせんまいけ
大作戦の展開
市町村との環境パートナーシップの推進
食品ロス削減、豊かな地下水保全の推進 など



環境教育推進事業

とやま環境チャレンジ 10、
はじめてのエコライフ教室の開催
こどもエコクラブの支援
立山等での
自然解説の実施 など



普及・啓発事業

「とやま環境フェア」の開催
環境保全に関する相談対応
「とやまエコ通信」、
「エコノワとやま」による
情報発信など



デコ活
くらしの中のエコろがけ

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

地球温暖化対策 推進事業

(デコ活ローカルとしての活動)

地球温暖化防止活動推進センターの運営
地球温暖化防止活動推進員(デコ活推進員)の養成
脱炭素経営の支援
再生可能エネルギー導入の支援 など

エコアクション21 地域事務局事業

エコアクション21 認証・
登録業務の運営
自治体と連携した認証サポート
セミナーの開催 など



エコアクション21

お知らせ

とやま環境フェア 2024 (富山県、富山市、環境とやま県民会議 共催) テクノホール(新館)で大規模リアル開催!

県民の皆さんにデコ活や持続可能な社会づくりに向けた企業・団体等の取組事例を紹介するブース出展のほか、ゼロカーボンアクションや3R・プラスチック資源循環、食品ロス削減の取組みなどエコライフについて、楽しみながら見聞・体験するイベントを開催。

- 日程** 令和6年10月12日(土)、13日(日)
- 場所** 富山産業展示館(テクノホール)西館(新館)
- 内容** 企業・団体等によるブース出展、
体験イベント・コーナーの設置等



詳しい内容は、とやま環境財団HP、
X、Facebookで
9月中旬に発信!



Xのフォローをお願いします!



富山県県土美化推進県民会議 からのお知らせ

「すすめよう ごみのない美しいまちづくり」



4月22日（月）、富山国際会議場において県土美化推進県民会議総会が開催されました。

来賓祝辞に続いて、県土美化功労者表彰が行われました。受賞者の皆様には、心よりお祝い申し上げますとともに、率先した県土美化の実践に対し、敬意を表します。

また、総会では、今年度の県土美化推進運動について、

- 快適で潤いのある海岸環境を創出するため、県民総参加による「みんなできれいにせんま いけ大作戦」を展開
- 県内の企業・団体等が参加する「とやま海ごみボランティア部」のメンバーによる海岸や街なかでの清掃活動を推進

など取組みの説明があり、了承されました。

富山県知事表彰

石黒 紘一 様	(富山市)
四ツ谷 瑞子 様	(富山市)
關口 謙 様	(高岡市)
上石瀬自治会 様	(高岡市)
坂東にこにこクラブ 様	(射水市)

県土美化推進県民会議会長表彰

鎌倉 好治 様	(富山市)
牧田 弘司 様	(富山市)
大坂 龍男 様	(高岡市)
押川 竹弘 様	(高岡市)
向井 武司 様	(高岡市)
椀澤 孝信 様	(氷見市)
石山 三千男 様	(黒部市)
藤ノ木校下環境保健衛生協議会 様	(富山市)
あさひがおかボランティアセンター 様	(氷見市)
田中町梅花福寿会 様	(滑川市)
滑川市立東加積小学校 様	(滑川市)
関西電力株式会社 黒部川水力センター 様	(黒部市)
上町和敬会 様	(南砺市)
南砺市立福光中学校 様	(南砺市)
中町美化ボランティアグループ 様	(射水市)
棚田フラワーロード 様	(射水市)
五十里海岸の環境を良くする会 様	(入善町)



詳しくはこちら

令和6年度県土美化推進運動実施要領

第11期 地球温暖化防止活動推進員 103名が活動を開始！

地域に根ざした地球温暖化防止活動を行う「地球温暖化防止活動推進員」103名が富山県知事から委嘱（11期：令和6～7年度）されました。4月20日（土）には委嘱状交付式が開催され、富山県の中島生活環境文化部参事から委嘱状が交付されました。

今後は、自主的な啓発活動や「とやま環境チャレンジ10」の講師など、地球温暖化防止に向けた積極的な活動が期待されます。推進員の皆様にはよろしくお祈りします。



暑い夏、熱中症に注意！ ～熱中症特別警戒アラートが創設～

今年も暑い季節になりました。

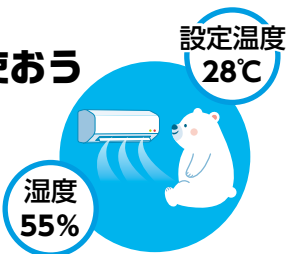
危険な暑さが予想される場合には、熱中症への警戒を呼び掛ける「熱中症警戒アラート」が発令されます。アラート発令時には、暑さを避ける、外出や屋外での運動及び長時間の作業をやめる、こまめな水分・塩分の補給をするといった熱中症予防行動を徹底しましょう。

また、今年から新たに、従来の熱中症警戒アラートの一段上に「熱中症特別警戒アラート」が設けられました。特別警戒アラート発令時には、市町村が指定するクーリングシェルターが開放されるなどの対応がなされます。

アラート発令時には熱中症予防行動の徹底を！

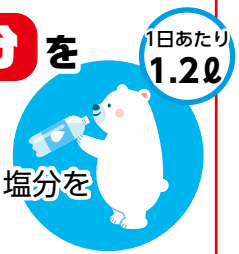
エアコン を使おう

昼夜を問わず
エアコン等を使用して
温度調節



こまめに水分・塩分を補給しよう

のどが渇く前にこまめに水分・塩分を
補給(1日あたり1.2Lが目安)



外出はできるだけ控え、暑さを避けよう

熱中症のリスクが高い方(高齢者、子どもなど)
に声かけをしよう

外での運動は、原則、中止/延期をしよう

暑さ指数(WBGT)を確認しよう

環境省「熱中症予防情報サイト」はこちら▶

<https://www.wbgt.env.go.jp/>



問合せ先 富山県 環境政策課 地球環境係 ☎076-444-8727

知っていますか？富山県の漂着ごみの実態

県内の海岸に漂着するごみの
何割が県内河川を通じて海に
流れ出たもの？

① 3割 ② 5割 ③ 8割

答えが分かった方は、周りの方にも伝えてください！

お願いします！※イラストの中にヒントが…

上流から流れてきたごみを集めてみたところ…



こんなにたくさんのごみが川に流れているの!?

漂着ごみを減らし、美しい富山湾を守るため、私たちひとりひとりが「できる」ことから始めてみましょう。

問合せ先 富山県 環境政策課 廃棄物対策係 ☎076-444-3140

お知らせ

宅配便を1回で受け取りませんか？

宅配便の再配達削減に向けた具体的な行動を促進するため、多様な受取方法を学ぶ啓発イベントや職場での受取り、置き配に関する取組みを実施します。

①再配達削減「見て、ふれて、考えよう！」事業

- ✓ 日程 令和6年10月12日（土）、13日（日）
- ✓ 会場 富山産業展示館テクノホール（とやま環境フェア 2024 会場内）
- ✓ 内容 「エコな配達」に関するトークイベント、宅配ボックスの展示等

②職場受取り事業所の認定

- ✓ 通年で宅配便の職場受取りを実施する事業所の募集・認定、広報

③みんなで「置き配」プロジェクト

- ✓ 宅配ボックスを取扱う「置き配サポーター（仮称）」の募集、情報発信
- ✓ 宅配ボックスを試験的に利用する「置き配体験モニター」の募集、情報発信

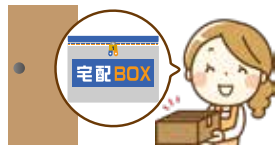
一人ひとりができること…こんな「受取方法」があります！

配達前に都合のいい【時間】を指定



※パソコンやスマートフォンなどで、時間や場所の指定変更を行うことができるサービスがあります。

あらかじめ1回で受け取れるよう【場所】を指定



玄関前に置いてもらう！
宅配ボックスや置き配を利用する



帰りにコンビニで受け取り！
帰りにコンビニや宅配業者の営業所で受け取る

富山 宅配便 1回

検索

問合せ先 富山県 環境保全課 大気保全係 ☎ 076-444-3145

「富山県ナチュラリスト制度」が創設50周年を迎えました

「富山県ナチュラリスト制度」は、昭和49年に本県が全国に先駆けて創設し、長年にわたり、自然解説、ライチョウ保護、外来植物対策など自然保護活動に取り組んできた歴史ある制度です。

今年度は制度創設50周年を記念して、様々な行事を企画します。

去る6月22日に記念講演会を開催し、「旬景とやま」でおなじみのフリーカメラマン濱谷一郎氏の講演や、創設以来複数の世代にわたって活動されてきたナチュラリスト関係の皆さんのトークセッションが行われ、約120名の来場者の皆様に富山の自然の魅力や自然保護の大切さを感じていただきました。

また、今後、様々な機会を捉えて、ブース出展やパネル展示等を企画し、県民の皆様方に、ナチュラリスト活動や自然保護思想を広めていきたいと考えています。



トークセッション

生物多様性マッチングサイトをオープン！

事業者・団体の皆様が生物多様性に取り組む際のマッチング希望やどう取り組んだらいいかといった相談を受け付けています。

お気軽にお問い合わせください！



問合せ先 富山県 自然保護課 自然環境係 ☎ 076-444-3396

県内市町村の取組みの紹介 ～砺波市～

1 はじめに

砺波市は、清流庄川によって育まれた扇状地からなる砺波平野の中心に位置し、古くから美しい散居景観ときれいで豊富な水に恵まれた緑豊かで自然溢れるまちとして栄えてきました。近年は特に持続可能な社会の実現（SDGs）に向けた機運が高まっており、地域課題の解決に向けて特長ある取組みを行っています。



2 屋敷林保全の取組み

本市では、伝統的な散居景観を守るため、「カイニョ」と呼ばれる屋敷林の保全に努めています。まず、野焼きの禁止によって処分が難しくなった屋敷林の剪定枝をごみとして出しやすくするため、燃えるごみの袋より厚手で破れにくい「落葉等専用ごみ袋」（通称：グリーンバッグ）を開発しました。また、剪定枝を運搬処理できないご家庭のためにパッカー車や軽四トラックによる戸別回収を実施したり、「剪定枝リサイクル大作戦」と銘打ち、市民が無料で剪定枝を持ち込むことができるイベントを実施してその剪定枝を堆肥にリサイクルするなど、地域の暮らしと美しい環境を未来へ残していくための取組みを積極的に進めています。



3 プラスチック一括回収の取組み

本市では、昭和41年4月より市によるごみ収集を開始するとともに、平成4年7月のビン・缶の資源ごみ分別回収を皮切りに、様々な区分の分別回収やごみ処理手数料の導入を実施してきました。さらなる資源循環を目指して、令和6年4月からは「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」に基づき、これまで燃えるごみとして捨てられていた「その他プラスチック製品」をプラスチック資源として容器包装等と一緒に回収する取組み（プラスチック一括回収）を実施しています。



4 おわりに

今後も「第2次砺波市環境基本計画」（計画期間：R6～R15）に掲げる将来像「庄川と散居に広がる快適なまち」を目指して、清流庄川と緑の散居村によって形成される恵まれた自然環境を地域のアイデンティティとして次世代にしっかりと受け継いでいきます。

R6エコアクション21 取得セミナー 参加事業者募集

募集締切
8月30日(金)

※先着順

エコアクション21で
脱炭素だ!



カーボンニュートラルの実現に向け、環境省が策定した環境マネジメントシステム「エコアクション21」の新規取得を目指す企業・団体を募集します。

セミナーでは、専門家（エコアクション21審査員）による講習や個別アドバイスを「無料」で受講できます。

サプライチェーン全体での脱炭素化の動きが高まるなか、国のガイドラインに基づく第三者認証制度の認証取得が、社会的評価の向上に繋がるといえます。

脱炭素・環境経営に興味のある方、エコアクション21の取得を本気で考えの方は、お気軽にご相談・ご参加ください。

会場 富山県森林水産会館
3階(富山市舟橋北町4-19)

参加費 無料

日程 2024年9月下旬スタート
10月～2025年1月まで
講習会(全4回)を開催

Q & A

よくあるご質問

Q セミナーでは、何が学べますか

A エコアクション21の審査を実際に行う審査員が講師を務め、環境マネジメントシステムの構築・運用方法について指導します。講習は、全て無料で受けることができます。

審査員の個別指導により、事業者のCO₂排出量の算定や、取得の必須条件となる環境経営レポートの作成もサポートしてもらえるため、短期間で効率的な取得が見込めます。

Q いつから始まったのですか？

A 2004年から全国で認証・登録制度がスタートしました。県内では事業者の脱炭素経営支援を目的に、県が主体となり2006年から継続してセミナーを開催しています。

県内の認証・取得事業者の3分の2は、このセミナーの受講経験があります。



Q 認証・登録にかかる費用は？

A 初回の認証・登録料、審査費用と審査員の交通費をあわせると、約20万円(従業員数30人規模の場合)です。

詳しくは、中央事務局のHPへ。

<https://www.ea21.jp/starter/cost/>



Q どんなメリットがありますか？

A 建設業では2023年1月より、経営事項審査において「エコアクション21」が評価対象に追加され、3点が加点されます。

また、入札参加資格申請において、県や県内自治体によって加点制度が設けられています(自治体によって異なります)。

詳しくは、こちら。

エコアクション21 中央事務局
一般財団法人 持続性推進機構
<https://www.ea21.jp/>



エコアクション21 地域事務局
公益財団法人とやま環境財団
<http://www.t kz.or.jp/>



企業で活躍する地球温暖化防止活動推進員さんの活動を紹介します！

YKK株式会社 環境・安全管理部 環境・エネルギー管理室 環境推進グループ

中島 智美さん

活動拠点は「YKK センターパーク ふるさとの森」



YKK 株式会社 が技術の総本山を置く黒部事業所は、立山連峰の鷲羽岳を源流とする黒部川が作る扇状地の左岸に位置しています。黒部川扇状地には、かつて小さな森がいくつも点在していましたが、近年都市化等の影響を受け森が少なくなり、生き物たちも姿を消していました。そのような背景の中、YKK 株式会社は創業者 吉田忠雄の理想であった「森の中の工場」の実現に向け、工場の跡地を利用し、

森と水辺の整備を進め黒部の原風景の再現を目指しています。2008年より地元の山々で採取した種から育てた20種約2万本の苗木を従業員やその家族などにお手伝いいただき植樹、2009年より併設する産業展示館を含めて一般開放しています。現在は木々も大きく育ち、希少種28種を含む370種以上の生物たちが集まる豊かな森に成長しています。

環境学習～次世代を担う子どもたちへ

私はふるさとの森を活用して、次世代を担う子どもたちを対象とした環境教育を企画しています。その目的は、子どもたちに自然を身近に感じ、重要性を理解してもらうことです。例えば、森にどのような木があるか、どのような生物がいるのか、森の中を歩きながら解説します。

またふるさとの森では2020年より、森のCO₂吸収量（推定値）をリアルタイムで見える化する取り組みを行っています。この取り組みの紹介に関連して、森の樹木や植物が光合成によりCO₂を吸収し、地球温暖化の防止につながるといった、森の役割についても教育の中で解説しました。



「ふるさとの森」で新しい発見を

ふるさとの森は身近な自然に触れ合える場所で、季節によって様々な風景を見せてくれます。春は桜、夏は緑が美しく、鳥や昆虫など様々な生物が見られます。秋は紅葉や木の実探し、冬は雪の上に残った動物たちの足跡を探ることができます。現在は森づくり開始時と比較すると木々が成長し、多くの生物が森に集まるようになりました。これからも森が成長し変化していくのが楽しみです。皆さんには一度きりではなく何度かふるさとの森に足を運び、訪れるたびに森で新しい発見をしていただきたいと思います。

「自然共生サイト」として生物多様性を保全



30 by 30

ふるさとの森は2023年10月、環境省が認定する制度「自然共生サイト」として認定を受けました。「自然共生サイト」は、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として保全するという生物多様性の国際目標「30 by 30」を達成するために重要なエリアです。生物たちの住みやすい森にするため、森をどのようにすればよいのかこれからも考えていきたいと思っています。また多くの方にふるさとの森の魅力や重要性、自然の面白さや不思議さを伝えられるように、今後も環境教育等の新たな企画を考えていきたいです。

YKK センターパーク®
黒部市吉田 200
<http://www.ykkcenterpark.jp/>



母娘で受け継ぐ「宝石の水」と父のチャレンジ精神

富山 地下水の守り人



地下水の守り人の浅野正子さん(黒部市:丸田工業株式会社)は、地下222mから湧き出る地下水を「宝石の水」と名付けて管理・販売。水深の異なる3種類の地下水を飲み比べることもでき、県内外からファンが訪れる人気スポットとなっています。

今年1月の能登半島地震の際には、被災した氷見市へボランティアを通じて水が届けられ、あたたかい支援がひろがっています。

今年1月の能登半島地震の際には、被災した氷見市へボランティアを通じて水が届けられ、あたたかい支援がひろがっています。



丸田工業株式会社

母 **丸田 敏鼓** さん

地下水の守り人 **浅野 正子** さん

黒部の豊かな天然水「宝石の水」

黒部川扇状地では、北アルプスの雪解け水を起源として地下水が豊富です。井戸掘り職人だった亡き父・信夫が1998年に掘り当てて以来、毎分500リットルの水が豊かに湧き出ており、これを「宝石の水」と名付けました。

火山特有の磁鉄鉱系花崗岩の地層が天然のフィルターとなり、長い年月をかけて濾過されるのが特徴で、硬度は30度、pHは7.5程度の弱アルカリ性です。口あたりがまろやかで、お茶やコーヒーがおいしく感じられると好評です。

能登半島地震では、被災した氷見へ

今年1月に能登半島地震が発生し、何か支援ができないかと考えていたところ、自ら被災しながらも氷見市で物資の配付ボランティアに奮闘する女性、川嶋裕美子さんを紙面で知りました。「この方なら!」と、思い立ったら即行動です。直接川嶋さんに連絡して水の提供を申し出たところ、「持ってこられ」と快諾してくださり、これまでに400ℓをお届けすることができました。

被災地へ元気を届けたいという思い一つで行動したら、パワフルな女性と出会い逆にこちらが元気をいただきました。お水で繋がるご縁に感謝しています。

「地下水の守り人」になったきっかけは?

父はチャレンジ精神が旺盛で、「北陸新幹線を空から眺める」といって、60歳を過ぎてからパラグライダーの免許を取得したほどです。その父が2015年に他界し、母と娘で「宝石の水」の一切を受け継ぐことになり、地下水に興味を持つようになりました。「地下水の守り人」に登録したのは、講習会などを通じて立山の地質や水の化学的な性質について、知識を深めることができると思ったからです。

時には、雪氷学の学会に足を運ぶこともあります。どんな分野でも興味を持ち、勉強を続けたいです。都市部では地下水が肥料や農薬により汚染されているという報告もあります。父が遺した名水が、ずっと美しいままでいられるように守り続けることが使命と感じています。



宝石の水を汲みに20年以上通り続ける大久保利恵さん(滑川市)。「煮炊きには、このお水しか使いません。お客さんから『お茶がおいしい』とよくいわれます。毎日続けることが、健康の秘訣です」

飲み比べ体験は、無料。住所：黒部市金屋字拾石割1500
※容器持ち帰りは、利用料が必要。



富山県HP「とやま名水ナビ」からご覧いただけます。

【地下水の守り人】地域に根差した地下水保全活動を促進するため、平成24年度より養成・登録を開始。現在138人が登録されています。

ナチュラリストの目から見た「立山カルデラ」の魅力



今回の特集は、もう一つの立山と呼ばれる「立山カルデラ」。カルデラ解説員でもあるナチュラリストの方にその魅力を語っていただきました。

安政の大地震の大崩壊から166年。崩壊現場、見渡す緑、砂防堰堤や崩落現場に伸びる道路など、自然とそれに挑む人間の英知が混然と一体化しているのが立山カルデラである。

春 天狗山稜線よりカルデラを俯瞰

4月、高原バスの開通とともに雪上散策のシーズンが到来。カルデラ展望台に直行する。手前でオオシラビソの凍裂を見ながら天狗山稜線を登る。オオシラビソの林間を、カモシカやライチョウの溜め糞、クマやウサギの足跡など多くの動物の気配を感じながら歩くと突然視界が広がる。新湯を眼下に見る。その日によってお湯がある時とない時がある（間欠泉）。また、年によっては足元の崖から泥・小・中・大・巨大な岩石が入り混じった、粘り気の乏しそうな真新しい崩壊斜面（崖崩れ）が広がっている。帰途は立山荘に向かって一直線に尻滑り、あっという間に帰り着く。

松尾峠からのカルデラもよい。裏山の中腹を巻いて行くのが面白い。尾根筋に出ると樹々は全て雪の下、第二の弥陀ヶ原かと見間違ふほど広い台地である。正面の山肌には荒々しい崩壊斜面が見える。

一方、700～800m下のカルデラ内は雪解けが始まっている。ドロノキ・オノエヤナギなど新緑の眺めが素晴らしい。大パノラマである。雪どけの頃、東側斜面の草地に黒い塊が動いていたなら、新芽を食べに来たクマだ。帰途はやはり尻滑りで帰る。



お湯のある時とない時の新湯



天狗山尾根の崩壊地

夏～秋 立山砂防工事専用軌道（トロッコ）かバス利用

カルデラ博物館から水谷平まで約18km、標高差640mを、スイッチバックを繰り返しながら1時間45分で急傾斜面を登る。特に樺平では高度差約200mを連続18段（連続数世界一）で上る。途中トチ、ブナ、ミズナラなどの樹間越しに多種多様な堰堤や、鬼が城などの崩壊地が見える。

真川と湯川の分岐点を湯川沿いに進み水谷トンネルを抜けると正面に水煙を上げる大堰堤が見える。立山カルデラの基幹堰堤である白岩砂防堰堤だ（富山県は世界遺産登録を目指している）。まもなくカルデラの出口の水谷平に着く。



スイッチバック



鬼が城崩壊地

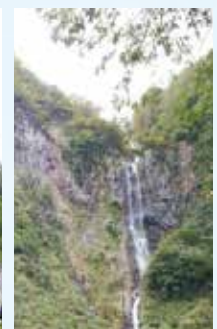
みずたにだいら

水谷平 安政の大地震(1858年)の崩壊土壌が作った段丘

立山砂防の水谷出張所、工事関係者の宿舎（6～10月）がある。当初は現在の約2倍の広さがありテニスコートもあった。側面の崩壊がひどく、凸凹の斜面を切り崩し鋼製のネットを張り、ススキ、ヤマハギ、イタチハギなどの種を吹き付けるなどの山腹工事により浸食が止まった。高さ20～30mのドロノキ（太いツタウルシが巻き付いている）の太木がある。9月下旬～10月には綿菓子のような孢子が降りそそぎ、あたり一面、綿を敷き詰めたようになる。ツタウルシは鮮やかに紅葉する。山側の垂直の崖には、弥陀ヶ原の南端から落ちる水谷の滝と柱状節理がこれでもかと眼前に迫る。



ドロノキ



水谷の滝

ろっきゅうだに

六九谷展望台 1969(昭和44)年の豪雨で崩れて出来た谷の上部に作られた展望台

崩壊地全体を見ることができ、展望台登り口にある小さな池がクロサンショウウオ唯一の生息地である。



六九谷展望台からの眺め

だしわらだいら

多枝原平 とんび山の崩壊土壌(通称・とんび泥)がカルデラを埋め立てて出来た台地

周辺には大規模な砂防施設群(明治~大正~昭和~平成~現在まで)が数多く作られており、幸田文が1976(昭和51)年、立山カルデラを訪れた時の感動を書いた「崩れ」の文学碑が設置されている。



「崩れ」文学碑

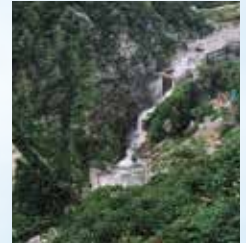
しらいわ さ ぼうえんてい

白岩砂防堰堤 立山カルデラ内の膨大な土砂を抑える要

主堰堤の高さは63m、長さ76m、7基の副堰堤を合わせると全体の高さ108m(日本一)で、1939年12月完成。近年、右岸岩盤の花崗岩の劣化が進んだため2本のトンネルを掘り、内部からアンカーボルトで岩盤の「引き止め」と「締め付け」を行った。



アンカーボルト



白岩砂防堰堤

立山温泉跡 温泉は1580(天正8)年に発見

夏場には約600人ももの客で賑わった。県の砂防事務所や、劔岳を測量した柴崎芳太郎の事務所もここにあった。温泉は1973年に閉鎖。現在は浴場や台所の跡が残っているだけで、近くには金庫が放置してある。目を閉じて当時の様子を想像してみるのもよい。駐車場近くには、安政の大地震で生き埋めになった36名の供養塔が静かに佇んでいる。



立山温泉跡



浴場跡



金庫

どしよう

泥鱒池 安政の大地震でとんび沼が湯川をせきとめて出来た池の一つ

ヒルムシロ、ミズバショウ、ヌマハリイなどが見られ、放流されたニジマス・フナ・ドジョウなどがある。池の近くで、松尾峠からの登山道が合流しているが、道標・案内板などはクマにかじられ無残な姿になっている。池に向かう橋の上からは、温泉が湧き出ているのを見ることができる。



泥鱒池



案内板



湯川右岸

あとつがわ

跡津川断層 安政の大地震を引き起こした大断層

1979年、砂防工事用道路建設中に発見。白川村~立山カルデラ~白山まで続く約70kmの大断層。2300年~2700年の間隔で動いている。

2003(平成15)年、国の天然記念物に指定された。



跡津川断層

観光で賑わう立山とは一味違う立山カルデラの魅力を、あなたも見つけに行きませんか。

富山県自然解説員 日下 紘一

立山駅横の立山カルデラ砂防博物館では、立山カルデラ見学会を実施しています。

立山カルデラ砂防博物館
☎ 076-481-1160



みんなできれいにせんまいけ 大作戦 2024！

川や海岸、身近なまちなかなど…
皆様のご参加をお待ちしています！



キャンペーン実施期間

令和
6年 ▶ 10月

各市町村の会場は、
こちら。



ポイ捨て、不法投棄のない県へ

県では、不法投棄の撲滅に向け、“いつでも・どこでも・誰かが監視している”仕組みづくりに向け「とやま不法投棄監視パートナー協力団体」を募集しています。

「不法投棄監視協力車」の専用マグネットを貼って車両を走らせていただける企業・団体の皆様は、当財団又は県環境政策課廃棄物対策係までご連絡ください！

不法投棄監視パートナー

検索



とやま環境財団へのご寄附

ご厚志ありがとうございました。とやま環境フェアの開催など、富山県における環境保全活動の推進に役立ちます。(令和5年10月～令和6年6月受取分)

ご芳名	摘要
(株)メガススポーツ 様	レジ袋無料配布廃止に伴う収益から
(株)平和堂 様	「みんなで地球の“きれい”を考えよう」キャンペーン期間中の花王ブランド対象商品の売上金から
(有)リカーズ(リカーショップよしだ) 様	プライベートブランド日本酒の売上金から
(株)北陸銀行 様	支援自販機に関する協定に基づき、北陸銀行関連施設に設置された自販機の売上金から
(株)ホクタテ 様	
北陸ココ・コーラボトリング(株) 様	
北陸電力(株) 様	会員サービス「ほくリンク」会員有志の皆さまより、「ほくリンクポイント」交換において当財団への寄附のお申込みをいただいたもの
(株)大阪屋ショップ 様	レジ袋無料配布廃止に伴う収益から

新規賛助会員募集

賛助会員募集中

当財団の目的に賛同し、活動を支援して下さる企業、個人の方を募集しています。

申込方法はこちら <http://www.tzk.or.jp/mailmaga/gaiyou01.html>



(公財)とやま環境財団の設立の目的

環境に関する情報の収集・提供、環境保全活動や環境教育の推進、地球温暖化対策の推進に関する事業を行うとともに、県土美化、廃棄物の減量化、地球温暖化防止の県民運動等地域に根ざした環境保全活動を展開することによって、美しく住みよい富山県の創造に寄与すること

<ご感想・ご要望のお願い>

今回の機関紙「きょうせい」の内容はいかがでしたか。掲載記事へのご感想やその他ご要望などをお寄せください。ご回答は二次元バーコードを読み取り、専用フォームに入力をお願いします。是非、ご協力をお願いします。



<表紙写真：富山県立氷見高等学校 海洋科学科3年生6名、中木 康晴 教諭>

駆除ウニの商品化を目指すプロジェクトは、令和4年度にスタートし、今年で3年目を迎えた。

農家や団体の支援を受け、おいしいウニを氷見の新たな特産品にしたいという先輩の思いを受け継ぐ。



公益財団法人 とやま環境財団

富山県地球温暖化防止活動推進センター、エコアクション21 地域事務局
〒930-0096

富山県富山市舟橋北町4-19 (富山県森林水産会館内)

TEL：076-431-4607 FAX：076-431-4453

ホームページ：http://www.tzk.or.jp

E-mail：tkz8@tkz.or.jp



▲二次元バーコード

- K 子どものころから
- Y よく遊んだ山や川
- O おいしい水と
- S 澄んだ空
- E 越中富山の美しい環境を
- I いつまでも残そう



エコインキの認定を受けた
大豆油インキを使用しています。



環境保全のため、
再生紙を使用しています。